

年号	事項
大正一二年	女島橋架橋
一四	中山新トンネル完工
一五	高谷、白濁間道路開通（工費老千貳百圓）
昭和 三	鶴岡村忠魂碑建立
九	黒木幸太郎佐伯町長就任
	葛港の防波堤着工（昭和十三年完成、工費三二千圓）
一 二	鶴岡村、上堅田村と合併し新佐伯町となる。
一 四	佐伯町長黒木幸太郎没、高司正直後任となる。
一 六	津志河内橋撤工（工費九千圓）
	佐伯町、大八島、八幡、西上浦各村を合併して市制を施行
二 一	下堅田 <small>（川内）</small> 西野耕地整理完工。
二 六	明治村大坂岸に河野堂像建立。
二 七	足田陵次郎盛徳褒章を受く。
三 〇	足田翁頌徳碑建立。 香山、下堅田、水立村を佐伯市に合併する。
	出納菊二郎市長就任
三 四	黒木幸太郎翁頌徳碑建立。

（お断り）碑文の句読点、段落は、諸人易くするためにあつし、独断で付きました。（元日の表記）

（余日の埋め草まで）

編集子

山本会員日、今回又佐伯市近郊の農山村地帯の四人の先賢指導者のプロフィールを、記念碑も頌徳碑の

文章から求められた。これは何度も何度も運代一字一句と丹念に採録せねば叶わないこと。大変根気のいる仕事である。  
特にどうかすると見すべし勝ちな落傍の頌徳碑も記念碑、それは僅か数十年前の前のことであるのに、当時の関係者は次々と亡くなり、明治、大正、昭和の時の流れの彼方には、御上の歴史的な人物の事蹟は消えつつある。故つておけないことである。

研究

佐伯の港はどんな働きをしてしているか  
——主として水枝の流通について——

大分県立佐伯豊南高等学校  
教諭・同校郷土誌クラブ顧問  
水会会員 市野 瀬

仁

第二章 佐伯港

第二節 その社会的環境（つづき）

二 佐伯海上保安署

元防備隊本部の長い平屋の中央に、海上保安署と航路標識事務所が看板が左右にかかっている。  
鶴谷港に繫着された海上保安署専用船の甲板で、私達を待っていて下さった保安官は、軍隊風の口調で長々と仕事の説明をなさる。まもなく狭い船室にぐわい入ると二人の保安官も居て、私達の質問に親切に答えてくれた。貴重なお茶を飲みながら、聞いたり話しかけたりす

るうち、船室はなんとなく家族的な雰囲気になつた。  
 県内にある保安用専用船は、大分港に二七〇ト一隻、  
 五〇ト一隻、二五ト一度、一二ト一隻の計四隻。津久見  
 港に二五ト一隻、佐伯港に二五ト一隻が浮んでゐる。

昭和四十三年度で佐伯海上保安署取扱いの件数及びその  
 内容の次の通りである。  
 (昭和四十三年度海上保安署調査)

種類	大分県	佐伯
乗り上げ	12	3
衝突	17	2
浸水	5	2
転覆	9	2
人身	16	9
洗関	10	0
火災	4	0
その他	1	0
合計	58件	18件

人身事故は佐伯の通に  
 あり、事故は下記  
 の通り。

	件数
汽船	32
漁船	17
其他	9

	件数
漁船	5
操業中	4

右の表に見る大分県全海域の事故件数  
 と分類すると下の表の通りである。  
 これらの特色をひそつて見ると、次の  
 ことが言える。

- 事件のおきる時期は、五、六、七月と十二月頃の、夏  
 冬の季節風の頃に集中する。
- 密漁では無許可の漁法、禁止区域での漁獲等一番警  
 戒してゐる。
- 北九州や西九州と違つて、密入国者は全くない。
- レジャーブームで磯釣の危険が、今後一層予想され  
 る。
- 一般的に事件の原因としては、人頭の不足、装備の  
 不完全、無理な仕事等があげられる。
- 以上の点から、零細企業の特徴がうかがえる。

いつものように、仕事の上から見れば佐伯港について左  
 ずねたとこゝろ、湾が大きく、大島の影響もあつて波が静  
 かである。ただ海水の汚濁には困つたものだ、と。では  
 具体的にどんな点で困るのかという質問に対して

○真珠養殖のロープが見えにくい。  
 ○接岸するとき、岸壁のチェーンが三〇cmそこらが見  
 えないうちで危険である。

正月の二、三日は海が青くなるが、それも短時間であ  
 る。一般に海水の汚濁は竹が島付近まで続き、その厚さ  
 は一米半もあるうか、スクリーンの周りの渦は悪々とし  
 ているということである。外に、

- 防波堤が低い。
- 岸壁が低い。
- 葛港そのものが浅い。
- 葛港の言葉が「つきつき」と出た。

ホ. 航路標識事務所

豊後水道の航行を守る燈台の管理が主なる標識事務所  
 の仕事である。とくに水の子燈台の管理が最も重要で、  
 七人の係官の何人かが交替で担当している。古来の係官  
 が話すには、遠洋航海から帰つた船は、水の子燈台の灯  
 を見て、やつと日本に帰りつた気がするにちがいない。正  
 に海の中のオアシスである。

港の問題には直接関係はないが、水の子燈台に当つて  
 死ぬる鳥、つまり衝突死鳥の数は日本一という。最近話題  
 になつてゐる日本脳炎の媒介に若しや渡り鳥が——とい  
 う事が出たのは、数が多いことも注目された要因ではな  
 かるうか。

前号で示した標識事務所所在地が県南に集中してゐ

るの故、稚島を除いて、佐賀ノ関から南のリヤス式海岸  
のりみ島岬が散在しているからである。今後ますます各  
種船舶の交通量がひんぱんになるるとき、海ノ守りの任務  
は益々重大となつて来るであらう。そして航路標識事務  
所は、仕事の内容から海上保安署と密接な關係を保つて  
警戒に當つていて、私運を保安署専用船に引率して下り  
つた方は、標識事務所の係官であつた。

### 九州海運局佐伯出張所

海運局の出張所は運輸省の管轄で、大分支局佐伯出張  
所となり、津久見支局より格は下である。

仕事の内容は、

○丹波海運業法

○旅客船——定期、不定期船の審査。

○港灣運送業——木枝荷役の積下し、積込み等の検査。

○倉庫業——冷蔵倉庫、一般倉庫、薬品倉庫等の審査。

佐伯では山本桂佐氏の水面倉庫、ニ平倉庫（自家用）

があるのが特徴的である。

今一つ佐伯の特徴として、船舶建造の許可申請手続と  
して、進水前の検査、速度規定、関連規定（内燃機関）  
修理等の検査とする。

また船員法事務取扱件数では（昭和四十二年一月—十二月）

大分（別府を含む）一、六一九件  
佐伯（蒲江を含む）二、三九五件（佐伯二、九六件、蒲江一、三八件）

津久見 二、二五〇件

となつており、佐伯地方が多い理由として

- 造船所が多いこと
- 四坪造船（二、二〇〇人）、三浦造船（五〇人）、古川造船（五〇人）
- 本町造船（二、〇〇人）、吉野造船（五〇人）、清家造船（五〇人）

井上造船（五〇人）とそれ以外、従業員がある。

荷役が多い。

漁獲高が多い。

等があげられる。

海運局の調べでは、全国で著名な造船所が六十五ヶ所  
あり、佐伯造船所の毎月需注数字は十六位ということ  
である。さきも税関での資料にある佐伯港の輸入額が全国  
で六十三位、輸出額が五十四位の位置にあるのに比べて、  
造船の実績はかなり高いことがうかがえる。

ここでも天恩の良港と、佐伯人の良さはほめてい  
たが、大分県より遠い左めか施設、設備が立ちおくれ  
ている点が指摘された。

### ト、海上自衛隊

海上自衛隊が佐伯に設置されたこと、は、かつて旧海軍  
航空隊や、防備隊の施設があつたし、軍用上、国防上の  
訓練基地として好い位置にあるからであらう。

佐伯海上自衛隊では職員三十名中大分県出身者が十一  
名で、私達の世話を下された人は佐伯市の隣地五の、  
豊南高校出身の方であつた。

自衛隊の仕事を内容は、補給、通信、怒務、警備等に  
分れている。艦隊が入れば、給水、清涼品、野菜等の補  
給から、航空ガソリンの準備、上官接待等多忙を極める。  
詰り通り十一月中旬以降下旬にかけて、夜の佐伯市内は  
自衛隊員で賑わつた。私は学校の滞りに街中で会つた自  
衛隊員をつかまえて、どこからきたかと場所をかえて尋  
ねてみた。一人は舞鶴、一人は佐世保からであつた。十  
一月は一年の総決算と言われる艦隊の競技会が行なわれ



大切であらうと思う。視野の狭い所から生まれ左思想は全く危険である。

次に之を普海軍関係の事務所相互に、横の連絡があまりないままに施行されていくということである。ほんのちよつとのせいで左に過ぎぬ世界に、軽率な判断だと戒めてあるが、守直にそう思つた。考へてみると何れこの世界に幾つたことではない。かりに教育界に見ても、小、中、高、大学の一貫性や、社会風育との横の連絡もあまり見られないうではないかと自問する。現代社会が他の世界と理解できず、ただ己の権利を主張しすぎて暴走している。私は見るが、こんなことが敏感に響くのであらう。

又こんな地味な仕事に對して、極めて人負不足を未だしていることが感ぜられた。とりわけ船員や自衛隊員から求めたか、どうすれば解決するか、私には分らないところが多い。けれども一歩つづつこんでみると政治の問題に突き当たることはまちがいないであらう。

社会科学の教師である私は、この節の海軍官庁関係の各資料をもとにして、私の担当するクラスで、一時間タツブリとつて授業に扱つた。郷土の生きる「社会」とは何から一端を知らしむるためによい材料であると思つた。左から試みるのである。(二の項終り)

研究

尺間神社由来記

賛助会員 高橋 智

(南海郡郡本五村大字三股)

私は毎年正月三ヶ日のいづれかの日に、早朝尺間神社

に参拜のため登山することになっている。これは戦時中武運長久の祈願をこめたことを思い起し、今日まで命をがらえていくことの神恩に對する感謝の意味からでもある。今年も正月二日の日に頂上で日の出を拜するため登山したが、曉雲を金色にそめて登る旭日を仰ぐ気持は、何とも云えない。

東海日出でて波打つところ  
國あり日本、我等が祖國 (昔々小學校の歌)

天地正大の氣 粹然として神州にあつたる(正氣の歌)  
これらの歌が如く、肅然として天地の靈氣を感ずる思ひがする。

「佐伯で高いは尺間山」といわれ、靈驗あらたす高神様として、昔から郷土の人々の信仰のままとなつていながら、この神様のいわれについて、わりと知られていないのではないかと思ひ、そのいわれについて記してみたい。

この神は山城の國愛宕山に祭られていた愛宕神社の神で、御神体は日本の神代に出でくる軻遇突の命とその御子孫である武甕槌の命、経津主の命の三柱である。この神のいわれは、古事記の中に詳しく出ているので、そのあらましを記してみると、軻遇突の命は火を司とる神といわれ、伊弉那美の命が軻遇突の命をお産みになつた時に、ミホトを焼かれて病みふし、とうとうお亡くなりになり、伊弉那岐の命は、いなくおなまされ、黄泉の國に伊弉那美の命を尋ねて行かれたとあり、釜土の神としてまつられ、又荒神様ともいわれ火伏の神としても尊ばれていく。

武甕槌の命は鹿島神宮に、経津主の命は香取神宮に祭られ、共に武甕の神として尊ばれている。このお二方の